



# AUE News



2010年 11月15日

第 4 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

## 目 次

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 行事予定(11月16-30日)   | ・書友会成果展            |
| トピックス             | ・藤田雅也石彫展           |
| ・実習園で学生が稲刈り体験     | お知らせ・報告・投稿         |
| ・高校教育シンポジウム       | ・文部科学省駅伝競技大会レポート   |
| ・教員演奏会            | ・新山王教授の論文入賞        |
| ・科学・ものづくりフェスタ@愛教大 | ・大学改革シンポジウム開催      |
| ・刈谷産業まつりに学生が参加    | ・第1回愛教大アカデミックカフェ開催 |

## 行事予定(11月16-30日)

- 16日(火) 役員部局長会議(10:00~ 学長室)  
第5回経営協議会(14:00~ KKRホテル名古屋)
- 17日(水) 教員人事委員会(13:30~ 第三会議室)  
企業就職ガイダンス(13:30~ 第二共通棟431)  
教職員研修講演会(15:00~ 第五会議室)
- 20日(土) 大学改革シンポジウム(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋)  
秋祭 21日(日)まで(9:00~ 第一・二共通棟ほか)
- 22日(月) 永年勤続者表彰式(11:30~ 第五会議室)
- 24日(火) 役員会(13:00~ 学長室)
- 25日(木) 総合防災訓練(14:40~ 本部棟, 共通棟, 附属図書館ほか)
- 30日(火) 役員部局長会議(13:00~ 学長室)  
第1回愛教大アカデミックカフェ(17:00~ 第五会議室)

## トピックス

### 実習園で学生が稲刈り体験(11/4)

秋晴れの下、技術教育の学生たちによる稲刈りが11月4日(木)午後4時ごろから、実習園で行われた。

参加したのは技術専攻の1年生12人。4限目の授業の後半、揃いのつなぎと長靴姿で、田んぼへと向かった。ほとんどの学生は稲刈りが初めての体験とあって、太田弘一教授や実習園を管理する長友武志さんから鎌の使い方やコンバインの操作の指導を受けながら、根本から一株ずつ刈り取った。

学生たちは、5月に種まきをして苗を育て、6月半ばに広さ約800平方メートルの田んぼに田植え、その後、カモ20羽を田んぼに放し、農薬を使わずに稲を育てる「アイガモ農法」に挑戦した。カモは水田を泳ぎ回って虫を食べて駆除したり、稲に混ざって伸びるヒエなどを倒して、稲作に貢献。途中、猫やカラスに襲われるなどして12羽まで少なくなったが、この日は、たわわに実





った稲を刈る学生たちの姿を見守っていた。

天候不順の影響などで今年の作柄は例年よりやや悪く、収穫量は約 200 kg。学生たちは「稲を育ててみて、米ができるまでの大変さが分かった」「手間がかかっていると実感できた」と稲作の感想を話しながら、収穫の喜びに笑顔を見せた。

刈り取った稲は田んぼで、はさ掛けして乾燥させ、脱穀。関連授業で炊いて食べたり、学内等で販売の予定。稲わらは堆肥の中に混ぜたり、土わらにする畑を保温するためにまいたり、一部を馬術部が飼育

している馬のえさにも利用する予定。

### 高校教育シンポジウム(11/5)

「第 30 回高校教育シンポジウム」が 11 月 5 日（金）、本学附属高校で開催された。同高校と本学教育創造開発機構大学教育・教員養成開発センターなどの主催、愛知県教育委員会の後援で教員、関係者らが出席した。生徒の興味、意欲を引き出し、いかに積極的な学習に取り組ませっていくか教育研究活動しており、「学びの可能性を拓く」がこの日のテーマ。



阿部和俊同高校校長の開会の辞に続いて、本学の横地正喜理事（連携担当）が「大学としても活動内容は高大連携の参考にさせていただきたい。活発な意見交換に期待しています」とあいさつした。同高校研究主任の細山光也教諭がテーマ、研究経過を報告したのに続いて第 1 分科会「高大連携」、第 2 分科会「英語科」、第 3 分科会「地歴・公民」の 3 会場に分かれて研究の意義、成果などについて発表があった。高大連携は「高大連携教育システムによる人材の発掘と育生方法に関する共同研究」、英語科は「ライティング指導・4 技能（読む、聞く、話す、書く）の総合的育成に向けて」、地歴・公民は「貿易ゲームの歴史授業での活用の可能性を探る」と共同研究者の本学教員がそれぞれの成果などを説明。高校教員からの問題提起もあり、活発に意見が交換された。

く、話す、書く）の総合的育成に向けて」、地歴・公民は「貿易ゲームの歴史授業での活用の可能性を探る」と共同研究者の本学教員がそれぞれの成果などを説明。高校教員からの問題提起もあり、活発に意見が交換された。

### 教員演奏会(11/5)

本学音楽講座全教員によるコンサート「愛知教育大学教官コンサート」が、11 月 5 日（金）午後 7 時から、名古屋市中区の電気文化会館ザ・コンサートホールで開催された。

十数年ぶりという同コンサートは、ここ数年に新たに着任した教員（橋本剛、国府華子、吉澤恭子の准教授陣）を紹介し、今年 4 月に本学を定年退職された隈本浩明特別教授への感謝の意味も込めて企画された。



演奏会の前売りチケットは外部業者へ委託して行われたが、学外からの注目度が高く、ホール定員（約 400 席）を大幅に超えて、開催日の直前に本学学生からの協力を得てチケットを回収せざるを得なくなる事態に。教員サイドからはやむなく「学外・地域の方々からの本学への関心、来聴の希望を優先したい」と呼び掛けがあり、その思いをくんだ学生がチケット提供に応じたという一幕もあったが、無事に本番を迎えた。

客席の多くは卒業生によって占められ、本学を退職した教員も来場したことから、開演前のロビーや客席はさながら同





窓会のように、明るくにぎやかな雰囲気にも包まれた。

演奏は、新山王教授のファゴット独奏，国分准教授のピアノソロ，橋本准教授の作品発表，吉沢准教授のハーディ・ガーディ



(ヨーロッパの古典楽器)，林剛一教授のバリトン独唱，武本京子教授のピアノソロ，中川洋子教授のソプラノ独唱，隈本特別教授のピアノソロ。ラストを務めた隈本特別教授はプーランク「ノクターン 7番」「メランコリー」を軽やかに、そして透明感ある音色と旋律で披露し、喝采を浴びた。普段の教壇での姿とは違う演奏家としてステージに立った教授陣の熱演は、観客を魅了し、客席からは惜しめない拍手が送られた。



### 科学・ものづくりフェスタ@愛教大(11/6)



科学・ものづくりの面白さ楽しさを伝えるイベント「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」が11月6日(土)，第一共通棟などで開催され、近隣から約900人が来場してにぎわった。

同フェスタは、本学教育創造開発機構 科学・ものづくり教育推進センターが主催し、今年で4回目。訪問科学実験運営会議メンバーの学部・大学院の学生らが執行部となり、理科教育の教員がサポート、機構運営課職員が事務的業務を担当し、実施している本学ならではの恒例イベント。

今年の参加プログラムは体験や製作、講演など40。生物多様性についての芹澤俊介教授の講演，訪問科学実験「大きなシャボン玉で遊ぼう」「キャンドルをつくろう!!」，ものづくり教室「木製パズルをつくろう」「マグネットをつくろう」，教材開発工房「3D映像を体験しよう」，天文台一般公開やプラネタリウム投影会，附属高校生による「偏光シート作り」など、さまざまなプログラムが繰り広げられ、家族連れや、グループの中高生などが詰めかけ、お目当ての体験のできる会場を巡り、科学やものづくりの面白さに触れた。学生たちも、日頃学んだ理科の知識をどう伝えるか工夫を凝らして説明，実演に奮闘。「面白かった～！」と喜ぶ子どもたちの歓声に、笑顔を輝かせた。



### 刈谷産業まつりに学生が参加(11/6)

刈谷市産業まつりが11月6日(土)，7日(日)に刈谷駅近くの市産業振興センターで開催され、7日には本学の学生たちが参加して、ものづくり教室などを行った。



市の産業を広く一般にもアピールする恒例の催しで、地域連携事業の一つとして本学も参加。会場となった同センターあいおいホールの2階で、「愛教大のお兄さん・お姉さんをつくろう」のタイトルで行われたものづくり教室では美術科2年生8人が、刈谷駅周辺のクリスマスイルミネーションに展示する飾り作り，技術科3，4年生23人が磁石や金属のキーホルダー，間伐材のパズル，形状記憶合金の熱エンジンの4種類を指導した。

イルミネーションの飾り作りは、午前 10 時から受付を開始し、昼頃には定員の 50 人に達する人気ぶり。参加者は発砲容器を UFOに見立てて、セロファンやモールでカラフルに装飾。思い思いのデコレーションを施して完成した作品に満足そうだった。



技術の 4 教室も各定員 8 人で午前と午後それぞれ 2 回ずつ開講して、計 64 人の参加を受け付けたが、予約開始時には行列ができ、すぐに定員いっぱい。各教室では、子どもたちが固い金属を加熱すると溶ける様子に驚いたり、電動器具で木片に穴を開けて歓声を上げたりと、ものづくりの面白さを実感した様子。時にはお父さん、お母さんも一緒になって、親子で熱中する姿が見られた。

場内では他に、本学の連携事業を紹介するパネル、昨年のイルミネーションの写真の展示も行われた。

### 書友会成果展 (11/10-24)



国語教育・書道専攻の学生を中心とした書道の研究会「書友会」による書道作品展「書友会成果展」が、附属図書館 2 階のアイ♥スペースで 11 月 10 日（水）から 24 日（水）まで開催中。

展示作品は 1 年から 4 年までの 10 人の 18 点、国語教育の教員 3 人による賛助出品 3 点の計 21

点。学生たちはそれぞれ、手本を見て書く「臨書」といわれる作品制作に挑戦。何度も練習を重ねて書き込んだだけあって、いずれも日頃の成果を発揮した見応えある力作ぞろい。書体もさまざまな個性的な作品が並び、訪れた人々の目を楽しませている。

また、「私の一文字」と題した 4 年生の合作は「寛」「新」「希」などの文字を各自が一文字ずつ色紙大の紙に書いて、コラージュのように展示したユニークな作品。会場に彩りを添えている。

入場は無料。開場時間は附属図書館ホームページを参考に。

<http://www.aueilib.aichi-edu.ac.jp>



### 藤田雅也石彫展 (11/14-27)

本学卒業生で彫刻家の藤田雅也さんの個展「藤田雅也 石彫展」が刈谷市駅前商店街の「スペース Aqua ふれあい交流広場」で 11 月 14 日（日）に始まった。27 日（日）まで。



藤田さんは 1978 年、岡山県生まれ。2000 年に本学美術科を卒業。在学中は彫刻を中心に学んだ。02 年に同大学院教育学研究科芸術教育専攻修了。その後、高浜市と東郷町の中学校で 6 年間、教壇に立ち、08 年からは名古屋経済大学短期大学部保育科専任講師に。受賞歴も 08 年に富士火災アートスペース賞入賞、10 年に第 65 回行動展会友賞を受賞するなど、新進気鋭の作家として注目されている。今回の個展は恩師、宇納一公教授（美術教育）からの提案で実現した。

展示作品は、石彫 9 点とドローイング 2 点の計 11 点。



会場ですぐ目を引くのが、黒御影石を使った代表作「殻 - '10」。総重量約 500 kgという大作で、一つの石を半分に分割、中をくり抜いて、表面を機械やサンドペーパーで磨き上げた。磨きの目の細かさの違いで、光沢や色合いの変化を表し、中央部には磨き込んだ漆黒の石を置いて“新しい命”を表現した。表面が茶色のゴロタ石を使った「大地の種 - '10」は手のひら大の五つの石を部分的に磨いて“新しい命”をランダムに配置したユニークな作品。ほかにも、学生時代からテーマにする「生命の誕生」を思わせる作品が並んでいる。



藤田さんは「愛教大に入ってから石彫に出合い、美術が楽しくなりました。硬い石を自分で加工すると違った表情が生まれたり、重い石が軽く見えたりして面白いなあと。刈谷は学生時代の6年間を過ごした思い出のある場所。そこでの個展で大学の後輩や中学の教え子が準備を手伝ったり見に来てくれてくれたりと、

交流できるのが嬉しい。商店街のギャラリーですから多くの人に気軽に見て、触れてもらいたいですね」という。

21日(日)午前10時～正午には同会場でワークショップ「消しゴムスタンプをつくろう!」を実施。対象は小学校4年生以上、参加料300円。事前の申込みが必要。問い合わせはスペースAquaへ。

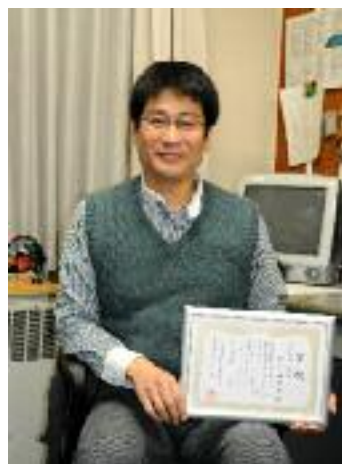
0566(23)3678



## お知らせ・報告・投稿

### 新山王教授が「セントレアの未来論文コンテスト」入賞

音楽教育の新山王政和教授が、中部国際空港(セントレア)開港5周年を記念した論文募集に応募し、佳作に入賞した。



論文募集はセントレアが、5年先、10年先の将来のセントレアのあり方について広く意見を聞こうと実施したもので、4月末の募集締め切りまでに全国から69作品の作品が寄せられ、このほど同空港5周年記念事業事務局が審査を行い、優秀賞(2作品)、佳作(4作品)を決定。受賞者には賞状と、セントレアの空港島と空港を取り巻く伊勢湾の青い海白いさざ波をイメージした常滑焼の盾が贈られた。

新山王教授の趣味は旅行と飛行機。いつも手にする旅客機関係の雑誌で募集を知り、空港でフィールドワークをして、論文約7000字にまとめた。タイトルは「セントレアを魅せる!人を呼び込み留まらせるための3つの夢」。スカイデッキで航空機の発着を眺めながら休憩できる軽食コーナーなどを設置、アクセスプラザに明るく開放的なオープンカフェを設置、臨海公園とパークロードの設置など、気軽に足を運びたくなり、全国に向けて存在感をアピールできるような魅力ある空港へ生まれ変わるための具体的な提案をしている。

「今回(の受賞)は自分の専門でない趣味の分野ですが、個人的には“地域の活動”として参加し、AUEのブランドネームが地域に浸透すればいいな、と考えています」と笑顔で語る新山王教授。さらに「私から見ると、愛教大とセントレアに求められているものが同じ。あるべき論でなく、具体的な提案で魅力を発信することが必要」とも指摘した。

### 文部科学省関係機関等教職員駅伝競走大会レポート(投稿)

10月30日(土)、東京の皇居桜田門をスタート、ゴールとする1人1周(5km/周)コースの文部科学省関係機関等教職員大学駅伝競走大会があり、本学の若手女子職員4人(学部支援課・藤目光さん、人事課・松本典江さん、学生支援課・後藤成美さん、教務課・大澤有子さん)が参



戦した。

昨今のマラソンブームのせいも、全国から男子及び混合 54 チーム、女子 14 チームがエントリーし、皇居に集まった。

午後 1 時 30 分のスタート時は、台風接近によりあいにくの雨模様。本学女子チームは、就業後の週 2、3 回の練習を重ねたメンバーで構成されており、本学オリジナルの食育キャラクター「しょくまる」Tシャツにマスコットをつけて台風の雨を跳ね返すかのようにタスキをつないでい

き、9 チーム（5 チームが出場見合わせ）中、7 位で完走！

寒さと台風の雨という最悪なコンディションの中、気持ちが折れずにゴールできた根底には、各個人の強い意志とチーム全員が一丸となる熱い思いがあったからである。

本学女子チームの走りにより、チームワークと「しょくまる」の食育活動を全国にアピールした成果となった。  
（教務課 田中哲之）



### 大学改革シンポジウム(11/20)

2010 大学改革シンポジウム「大学院での教員養成をどうとらえるか」を、11 月 20 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 30 分、名古屋市中区の A N A クラウンプラザホテルグランコート名古屋 5 階「ローズルーム」で開催します。

教員養成の高度化が焦点になる中で、「教育系大学院（修士課程）での教員養成」の役割と可能性は何かが問われています。これからの教師像をどう描き、教育系大学院ならではの理論と実践の融合を今後どう深めるべきかについて意見交換が行われます。

文部行政の立場から最新の情報提供をいただき、教師教育の視点、実践的指導力の課題と可能性など、それぞれ専門家の報告を基に、喫緊の課題となっている論点を参加者の皆さんと共に深めます。

講師は渡邊倫子氏（文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室長）。パネリストは梅澤収静岡大学教授、佐久間亜紀上越教育大学准教授、松田正久本学学長。コーディネーターは子安潤、後藤ひとみ本学教授。総合司会、折出健二本学副学長。

入場無料。事前の申込みが必要です。問い合わせは本学法人運営課へ。

0 5 6 6 ( 2 6 ) 2 7 3 7 E-mail: sympo2010@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

### 第 1 回愛教大アカデミックカフェ(11/30)

本学で初めてのアカデミックカフェを 11 月 30 日（火）午後 5 時から、本部棟 3 階の第 5 会議室で開催します。

テーマは「2010 年ノーベル物理・化学賞って何だったの?」。日本人 2 人が受賞した 2010 年ノーベル賞について、本学教授が分かりやすく解説します。コーヒーを片手に、最先端のエッセンスに触れてみませんか?

内容は次のとおり。

1. 物理学賞にちなんで「グランフェンとその応用」 講師：三浦浩治教授
2. 化学賞にちなんで「カップリング反応をはじめとする有機合成反応や機能性材料の開発に関わる金属錯体の反応と基礎研究」 講師：中島清彦教授

教職員、学生、一般などどなたでも参加可能。入場無料。ただし、午後 6 時以降は建物への入場は学生証、職員証が必要。

事前の申込みは、人数を下記にお知らせください。当日の来場も可能です。

問い合わせは、法人運営課広報室へ。 0 5 6 6 ( 2 6 ) 2 7 3 8

E-mail: kouhou@aecc.aichi-edu.ac.jp

## 編集後記

教員や学生の“理科離れ”“理科嫌い”が深刻化する中，11月上旬には「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」「刈谷産業まつり」が開催され，参加した子どもたちへのものづくりの指導に本学の学生たちが大活躍しました。素材が変化する面白さや，自然の不思議に目を輝かせる子どもたち。子どもたちに教えながら，自らも学ぶ学生たち。そんな光景が印象的でした。愛教大ならの取り組みに，今後も学系や選修・専攻の壁を越え，多くの学生や教職員が参加して，“教える”“学ぶ”ことで“理科好き”になる喜びに触れる機会になればいいな，と取材をしながら感じました。（K）

## 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者:総務担当理事 折出 健二